

神明上遺跡出土土器

20点



神明上遺跡^{しんめいうえ}は、市役所がある日野台地に位置する遺跡で、縄文時代から平安時代を中心に、遺構・遺物が発見されている遺跡である。

これらの土器は、日野台地の東側縁辺部に営まれた一軒の住居跡から一括して出土したものである。その内訳は、壺型土器 6 個、^{かん}埴形土器 1 個、甕形土器 7 個、椀形土器 3 個、小型器台付土器 2 個、浅鉢形土器 1 個の計 20 個で、そのうちの 15 個は完形、または完形に近い形で出土した。

土器の製作年代は、弥生時代終末から古墳時代初頭と考えられ、この時期における当地域の基準を示す土器であり、その点数と内容の豊富さから、市有形文化財に指定された。

これらの土器は、古墳出現期の日野市域を考えるにあたり、重要な意味を持つ資料である。

〔参考文献〕

日野市遺跡調査会『(株)大京 I・II 共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—神明上遺跡一』(株)大京 1995 年 3 月

平成 14 年 5 月 13 日指定

所在地 日野市神明 1-1 2-1

所有者 日野市

(見学の際には、事前にお問い合わせ下さい。)

問合せ先 日野市教育委員会 ふるさと文化財課 文化財係(042-583-5100) Email:bunkazai@city.hino.lg.jp

※無断転載・使用及び別の媒体に収録して再配布する等禁止。(C) Copyright Hino Board of Education All Rights Reserved.